

香川県・高松市など産学官で実証実験

「イルカ」保険証に活用

4月から J R 四国社員ら協力

香川県や高松市、香川大学、四国旅客鉄道（JR四国）などが参加する「かがわSSCコンソーシアム」は高松琴平電気鉄道（琴電）のICカード「IruCa（イルカ）」を健康保険証として活用する実証実験を4月から開始する。JR四国の社員が協力、高松市在住の国民健康保険の加入者の参加も募る。カードを鉄道、バスの料金決済に加えて、健康保険証として活用し、生活の利便性向上に向けた取り組みを強化する。



実験は医療や年金などの情報を一元化する「社会保障カード」の制度設計に向けた国の実証事業の一環として実施する。実験の参加者は、イルカカードの機能が付いた専用カードの交付を受け、健康保険証として病院の診察手続きの際に提示。ICカード機能を利用して、診察代金の支払いもできる。

また、自宅のパソコンを使って、読み取り専用の機にカードをかざすと、自身の検診情報や医療費

情報、健康診断受診結果などを閲覧できる。

香川大学付属病院など高松市内の基幹となる病院3カ所が実験に参加する予定。病院にはカードの読み取り機などの専用端末を設置。専用サーバーにアクセスし、健康保険の情報を取得する。利用者には最低2000人を目標に集める。JR四国やジェイアール四国バスの社員に参加してもらうほか、高松市に在住する国民健康保険の加入者を対象に参加者も募

る。国民健康保険加入者の参加者は、高松市内のショッピングセンターのイオン高松とゆめタウン高松の2カ所で、専用のブースを設けて参加を募る。

今回の実証事業はシステム開発のSTNet（高松市）が全体のシステムを構築し、ミトラ（同）が参加者の募集や実証事業の管理を行う。6月末まで実施し、利用者からのアンケートやヒアリングを実施して、使い勝手などを調査する。

バス 徳島 高速バス2路線休止

3月末で「100円高速」で減収

徳島バス（徳島市、渡辺寿栄夫社長）は23日、高速バス路線のうち、徳島―学園都市（神戸市）線と、徳島―奈良（天理

市）線の2路線を3月末で休止すると発表した。休止期間は当面1年間。「1000円高速」で利用者数が急減したため、同社は「これ以上の減収は耐えられない」と話している。

また、徳島県内の一部の路線バスについても9